匝瑳市地区別防災カルテ

地区名: 豊栄地区

小字名	世帯総数	総人口	男人口	女人口	1世帯あたり人員	備考
飯倉	514世帯	1,170人	567人	603人	2.3人/世帯	
時曽根	74世帯	206人	95人	111人	2.8人/世帯	
貝塚	75世帯	220人	105人	115人	2.9人/世帯	
新	19世帯	48人	22人	26人	2.5人/世帯	
亀崎	35世帯	90人	43人	47人	2.6人/世帯	
久方	51世帯	152人	73人	79人	3.0人/世帯	ĺ
木積	91世帯	231人	114人	117人	2.5人/世帯	
田久保	16世帯	40人	19人	21人	2.5人/世帯	
富岡	39世帯	100人	56人	44人	2.6人/世帯	ĺ
飯倉台	618世帯	1,647人	815人	832人	2.7人/世帯	
						ĺ
計	1,532世帯	3,904人	1,909人	1,995人	2.5人/世帯	住民基本

2. 居住者に関する指標: 児童人口 0歳~14歳 労働人口 15歳~64歳 高齢者人口 65歳. 地 区 人 口 3,904人 □児童人口 □労働人口 □高齢者	以上
人 口 密 度 489.8人/ 2012	
世 帯 密 度 192.2世帯/៤値	
年少人口(児童人口) 506人 13.0% 22.1% 13.0%	
労働者人口 (労働人口) 2,534人 64.9%	
老年人口(高齢者人口) 864人 22.1%	
総 人 口 3,904人 100.0%	
高 齢 化 率 22.1%	
要援護者台帳登録者数 100人	
要援護者支援者登録者数 42人 64.9%	
支援者がいない要援護者の数 69人	
支援者がいない要援護者の割合 69.0%	

3. 公園					
公園名称	種別	供用面積	公園名称	種別	供用面積
平台公園	都市公園	3, 246 m²			
鈴歌公園	都市公園	7, 563 m²			

4. <i>1</i> 土砂	<mark>危険箇所、危険物施設の現況:</mark> ±砂災害警戒区域、急傾斜地崩 災害危険箇所、河川・準波浸水被害想定区域・危険物施設等	崩壞危険区域、	
1	土砂災害警戒区域		
	飯倉	3箇所	
2	急傾斜地崩壊危険区域		
	久方	1箇所	
3	土砂災害危険箇所(急傾斜)		
	飯倉・貝塚・亀崎・新・田久保・富岡・木積・久方	42箇所	
4	危険物施設等		
	屋内貯蔵所・地下タンク貯蔵所・移動タンク貯蔵所	5箇所	
	給油取扱所	1箇所	
その)他:		

名称	5	所在地	電話番
	指定避難所(一次避難所)	
:栄小学校		飯倉1847番地	72-053
		指定避難所 (一次避難所)	数 1筐
	指定避難所(二次避難所)	<i>77</i> 1 - 1
		レンナンロカ サビニア / → V/. >ロカ サビニア)	±/ ∧ <i>ħ</i> /
	指定緊急	指定避難所 (二次避難所)	数 0筐
:	相足系忌	<u>ლ無場別</u> 飯倉1615番地1	72-067
: 本体自別 : 歌公園		飯倉台37番地1	12-067
台公園		飯倉台17番地	なし
口女園		MA DIENE	,,,,
		指定緊急避難場所数	3筐

※全ての「指定避難所(一次避難所)」が「指定緊急避難場所」を兼ねています。

6. 医療機関			
医療機関名	所在地	電話番号	診療科目
社会福祉法人九十九里ホーム病院	飯倉21番地	72-1131	内科・呼吸器科・整形外科等
いむら歯科クリニック	飯倉台5番地6	79-1555	歯科
エイトピア歯科	飯倉283番地1	73-7447	歯科
八日市場かど歯科医院	飯倉台19番地24	79-2418	歯科

7. 3	7. 建物の状況:総数については建築年不明を含む 内訳数については建築年が判明しているもののみ集計					
	構造	総数	S56年6月以前	~H12年6月	~H25年3月	
	木造	2, 262	577	805	298	
非	1-2F	402	107	195	65	
木	3-5F	14	4	7	3	
造	6F以上	0	0	0	0	
	総数	2,678	688	1,007	366	

手の履歴: (平成23年3月11日の東日本大震災~) H28.1月現在
事項
東日本大震災 住家 全壊(2棟) 半壊(5棟) 一部損壊(140棟)
非住家 全壊(1棟) 半壊(2棟) 一部損壊(54棟)
損壊建物の内、6棟に液状化被害が発生
大雨・洪水・暴風・波浪警報 住家の一部損壊 (飯倉台 1棟)
台風26号 崖崩れ・土砂崩落(7件)
道路への倒木(1件) 電線への倒木(1件)
大雨警報 土砂崩落(飯倉 2件)
台風18号 道路への倒竹(1件)

9. 防災上の課題・留意事項等

【防災上の課題】

- 1 豊栄地区は集落が分散しているため、避難所・避難場所まで距離がある集落については自主防災会等で安全な箇所を確認しておくことが重要である。
- 2 東日本大震災において、建物の損壊があったため、建物の耐震化や室内における強い揺れへの対策を行うとともに発災時の避難行動等について確認しておくことが重要である。
- 3 市の西方に位置し、国道126号線付近は台地が中心であるが、山間部も一部存在し、土砂災害警戒区域や急傾斜地崩壊危険区域、土砂災害危険箇所に指定されている箇所が46箇所あり、崖地周辺の住家は、大雨時の崖崩れに対する警戒が必要である。

【留意事項等】

- 1 自主防災組織はどのような活動を行うか考え、年間の活動計画を立てることが大切である。主な活動内容は自主防災訓練の実施、市の防災訓練の参加等があるが、その活動計画の中に地域の避難路等の安全確認を組み入れる。
- 2 地震対策としては、昭和56年5月末以前に着工された 住宅やアパートは耐震性が低い可能性があるため、耐震補 強工事を行う。
- 3 室内の地震対策としては、家具に転倒防止器具を取付け 固定することや、ガラスが割れても飛散しない防止フィル ムをガラス面に貼る。
- 4 避難時はヘルメットや頭巾等(ない場合は手荷物やカバン)で頭を保護し、あらかじめ準備した災害用備蓄品を持って履きなれた運動靴で迅速に避難する。
- 5 土砂災害対策としては、本カルテの裏面図を活用し、あらかじめ土砂災害危険箇所等の危険箇所を把握し、避難場所や避難の道順等を確認しておく。
- 6 台風や大雨等によって崖崩れの発生する危険性が高くなった場合は、テレビ、ラジオ、防災行政無線等で土砂災害 警戒情報を知らせているので、発表された際はすぐに避難 できるようにしておく。

